

(様式 1)

自己評価票

【自己評価の意義・目的】

- 自己評価は、事業者自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことにより、サービスの質の向上を図るシステムの1つです。
- サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や第三者評価、苦情解決制度や権利擁護制度、さらには、アンケート調査等による入居者からの声の反映、オンブズマン機能などが相まって実施されることにより達成されるものです。
- この自己評価の結果を公表することにより、入居者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

記入年月日	平成 21 年 1 月 15 日									
法人名	社会福祉法人ラポール会									
代表者(理事長)名	辻 君子									
介護保険事業所番号	2	7	7	0	7	0	1	0	4	7
サービスの種類	・ 認知症対応型共同生活介護 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所									
	・ 介護予防認知症対応型共同生活介護 ・ 介護予防小規模多機能型居宅介護事業所									
事業所名称	くみのき苑グループホーム千寿									
事業所所在地	大阪府河内長野市木戸2丁目33-5									
記入担当者職・氏名	(職) リーダー (氏名) 若林 佳矢子									
連絡先電話番号	0721-50-1151									

自己評価項目構成

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【自己評価の実施方法】

- 運営者(法人代表者等)の責任の下に、管理者が従業者と協議しながら実施してください。
- 「評価項目」ごとに評価をしてください。
- その判断した理由や根拠のポイントを記入してください。
- 少なくとも、年に1回は自己評価を実施してください。
- 優れている点や改善すべき点などの特記事項についても、別途、記録しておいてください。
- 改善すべき事項については、改善のための計画(任意様式)を作成してください。
- 入居者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように、利用申込者又はその家族に交付する重要事項説明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどし、評価結果を積極的に公表してください。
- 評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	【地域の中で当たり前暮らし】と【人間の尊厳を大切に】を理念としている。	○	理念をもう少し具体的にし、全職員が理解しやすく、実行しやすい内容に変えていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を、全職員に年度初めの全体会議で話で説明し、理念を周知してもらっている。理念を基に、事業計画をたてているが、今年度は実施出来ていない。	○	特に新人職員に周知してもらって、入職研修にカリキュラムに組み込んでいる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、入居者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	平成19年より自治会に加入し、自治会議や自治会行事に参加し交流を図るようにしている。	○	近隣住民が気軽によって頂ける様な行事等、取り組みを考えていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	外出時に近隣の方に対しての挨拶を心がけている。	○	自治会への加入や施設や入居者への関係作りに取り組んでいる中で、次の段階として、気軽に立ち寄って頂ける関係を目指した取り組みをしたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入することが、近隣住民の方との交流の場とし、地蔵盆・秋祭り・もちつき大会などに参加している。	○	入居者と地域の方との関係のパイプラインになれる様に、まずは、全職員が地域の方に覚えて頂く必要がある為、地域の掃除や夜警等、に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 入居者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自治会行事に参加した際に、認知症についての相談や、介護保険について等の話している。	○	左記の事を継続していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果表を全職員に伝えているが、全ての事を具体的に改善策を立てて取り組めていないが、日誌の記入方法を完結に記入できるように変更した。	○	今後も負担が軽減出来、尚且つ効率よい方法等あれば検討し変更していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日ごろの様子や行っているケアを話すも、家族様からの意見があまり出ていない。出た意見に対して、その場や会議で話し合い、朝礼で職員やリーダーに伝えている。	○	家族、地域の方々が意見が出やすい雰囲気作りやテーマを考えていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所での会議や勉強会に参加している。	○	左記の事を継続していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要に応じて支援する様にはしているが、勉強会等は開催していない。	○	外部研修に参加した職員から、参加できなかった職員に対してフィードバック研修を行ってきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、入居者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	他施設での出来事や、新聞・テレビなどの情報は朝礼で報告したり、書面にて配布している。	○	グループホーム内で起こりうる虐待や認知症高齢者の事象事例等を用い研修会を行いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、入居者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要事項は、読み上げて説明をしている。不明点や不安な点があれば、いつでも相談頂ければと、家族様にて伝えている。	○	左記の事を継続していきたい。
13	○運営に関する入居者意見の反映 入居者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活での入居者が何を望んでいるか意見、不満、苦情に耳を傾けるように指導している。出た意見は必ず上司に報告し日誌にそういう内容があれば上司も入居者と話す機会をつくっている。	○	左記の事を継続していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理や受診前後等、個々に報告している。	○	左記の事を継続していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関、各階に、意見箱を設置している。頂いた意見を苦情受付表に記入し果然さくを考え、各階に伝えている。	○	左記の事を継続していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時もしくは必要に応じて意見や提案を聞く機会を設けている。	○	左記の事を継続していきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 入居者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	基準を満たすように、話し合い、勤務調整は行っている。	○	左記の事を継続していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、入居者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	左記の事を継続していきたい。
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	左記の事を継続していきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	左記の事を継続していきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	○	左記の事を継続していきたい。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	○	左記の事を継続していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族から何度か事前に話を聞かして頂き、面接時や見学時に、本人にも聞く機会を作っている。	○ 左記の事を継続していきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学、面接の際や契約時に聞かせて頂いている。随時、電話にて受け付けている事も伝えている。	○ 左記の事を継続していきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接時に、本人の状況、ご家族の状況を聞き必要な支援を検討している。	○ 左記に同様、支援していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の入居者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず、必ず本人が可能な限り、一度見学か遊びに来て頂く様に声はかけている。	○ 入居されるまでに、家族と本人の時間と身体的負担のない範囲で、何度か来苑して頂きながら、他の入居者とも、コミュニケーションが図れるようなことも考えていきたい。ショートステイも活用していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の方の行動を尊重しつつ、食事作りなどを一緒にし、入居者から教えて頂いた事を記録に残している。	○ 入居者から教えて頂いた事を全て記録に残しておらず、今後リーダーから全員に伝えいくと共に、記録をけあに活かしていける様うに、ユニット会議で話し合っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	何かあった時は、家族様に相談（面会・電話）協力して頂いている。家族様からのアドバイスは気付きノートや連絡帳で把握し、ケアに繋げている。	○	家族様からのアドバイスを、現場やケアカンファレンスに活かせる様に、ユニット会議で話し合う。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に入居者の方の状況、良い事も悪い事も含めて伝え、家族様との関係をスムーズにしているが、職員によって家族様への伝え方が違う事がある。	○	入居者の方の状況、家族様からの情報は、ケースに記録を統一していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こちらから年賀状を出しているが、馴染みの人から届いた返事に対して、返事を出せてない。	○	入居者の方の状況、家族様からの情報は、ケースに記録を統一していきたい。
31	○入居者同士の関係の支援 入居者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに入居者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビングにソファや椅子を置き、共有空間の中に入居者同士で自由に過ごせる居場所を確保、入居者同士で会話が通じない時は、職員が間に入っているが職員のレベルによって対応出来ない事がある。	○	ユニット会議で、勉強会をしていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする入居者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	こちらから、積極的な付き合いはないが、家族に相談し、了解を得た場合は、行っている。	○	家族様に相談してく、機会を作りたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者からの訴えがあった時は、スタッフ同士で話し合っているが、十分な時間がとれていない。	○	入居者からの訴えがあった時は、ケースに記録する様、リーダーから全職員に伝える。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を聞き、気付きノートに記録を残している。また、入居者の生活の中での職員の疑問についても、家族様へ連絡、相談させて頂いている。	○	入居者の方の過去、個々の情報が十分把握や共有出来ておらず、ユニット会議などでセンター方式を行い、個々の情報を共有できる様にしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース記録にて入居者の方の状況など、職員間で情報を共有し、申し送りをしている。	○	リーダーとサブが、ケース記録と申し送りの徹底を現場に伝え、職員間で情報を共有し把握していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる入居者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族様には、面会時に話を聞き、ケアカンファレンス時に話し合っている。本氏の必要な情報は、ケアカンファレンスまでに、職員が集め、話し合っている。	○	職員によって、アイデアや意見が乏しくなっている。たくさんの意見などが出やすい方法を検討していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは、出来ている。状態変化が起こった場合も、関係者と話し合い行っている。	○	左記の事を継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の入居者の記録や情報が、介護計画にフィードバックできる様に努力しているが、出来ていない。	○	日々得た情報を記録に、細かい事も残していく事と、介護計画に活かしていく方法を考えたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内本部の行事に参加したり、本部のディサービスに参加している。	○	左記の事を継続していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の行事に積極的に参加をしている。また、年2回避難訓練を消防署の協力を得て実施している。	○	左記の事を継続していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス事業者と相談し情報を得てサービスの向上に努めている。（訪問散髪等）	○	左記の事を継続していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	家族の希望が現在ない。	○	今後、希望があれば迅速に対応したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療希望の方は青山クリニック受診。それ以外の方は家族が希望される病院を受診。受診の送迎、付き添いを行っている。	○	本人及び家族の希望を大切にし、行ってきたい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、入居者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者に変化があればNSと現場で相談し、Drの指示を仰いでいる。また、月2回精神科受診している。	○	Dr、NSの指示を継続して把握、対応出来るよう、申し送り、ケース記録を徹底していきたい。
45 ○看護職との協働 入居者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎日NSに健康状態をチェックしてもらっている。何かあれば相談、指示はケース記録に記入している。	○	NS指示も職員によっては伝え漏れがある事が有る為、ケース記録を徹底すると共に、ケースとは別の記入用紙を作って対応していきたい。(ユニット会議で話し合う)
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 入居者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、管理者、副主任が本人の様子など、病院関係者に説明、入院中、現状、今後どうするか？病院、家族と相談する。	○	
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ADLが低下し改善出来ない場合、管理者、副主任、リーダー、家族様と話し合い、主治医、NSに相談し、その上で家族様と再度話し合っている。	○	相談した事を現場がどこまで理解しているのか？職員によって理解できていない場合があるため、今後会議で話し合っていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の入居者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度になった場合は、管理者、副主任、リーダー、家族と話し合い、主治医、NSに相談しその上で家族さまと話し合ってる。話し合いの結果から現状、今後の変化に備えての対応を検討している。	○	現在重度の方がおらず対応する機会がない為、今後勉強会を行って対応していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退所時他施設へ行くダメージを防ぐ為、退所前に次の施設と話し合う機会を設けたり、見学に来て貰っている。家族様とも相談した上で希望を聞き助言されている。	○	リーダーが話し合いに参加する機会を作っていき たい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	男性には敬意を含めて声を掛けるなど、入居者の性格にも配慮しながら声掛け、対応するように努めている。記録等の個人情報は保管庫に入れ鍵を掛けている。	○	ケアの統一あできていない為、会議で話し合い統 一していきたい。
51	○入居者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入浴、散髪、マッサージなど、入居者より希望があれば出来る限り対応している。	○	夕食後の入浴希望があっても対応出来ておらず、 今後夕食後も対応出来る様、日中の動きをリー ダー、サブで相談していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者から訴えがあった場合、入居者の生い立ち、生活歴を考えるとともに、まず訴えを聞き、業務は関わりの次にする様、徹底している。	○	意識、努力はしているが、入居者の生い立ち、生 活歴を調べたり前向きな取り組みが乏しい為、 リーダーから伝えていく必要がある。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者希望の理容・美容室があれば希望のお店に行く様に対応しているが、全員の希望を聞けておらず、多数が近くの理容・美容店利用されている。	○	理容・美容が必要であれば、こちらから入居者の 希望を聞き、髪型などの本人の希望に対応してい きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を食事のみとして捉えるのではなく、食事の前後も食事の一環として捉え、食事準備から調理、片付けまで入居者の方が主となるよう職員が一緒に行っている。	○	料理が苦手な職員やデンセイ職員は食事準備、調理、片付けなど、職員が主になっている事が、あり現場の状況をみて交代やフォローするなどして対応していきたい。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙スペースを確保し、お酒、煙草など要望があれば、可能な限りその意向に添えるよう対応している。	○	個々の嗜好を把握し、可能な限りその意向に添えるよう対応していきたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ声かけが必要な方は、決まった時間にトイレ誘導を記録し、排泄パターンを把握する事で排泄の失敗を減らす様対応している。	○	排泄記録漏れがあり、排泄パターンが把握できていない方もおられる為、記録を徹底していきたい。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝から入浴出来る様、準備している。	○	夕食後の入浴希望に対応出来る様取り組んでいきたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	EV前にテーブルと椅子を置き休憩スペース確保している。	○	居間に掘りごたつを作ったが活用できておらず、今後休憩スペースとして活用していきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	編み物をして、頂いたり、運動をされてた方にはおやつ時に主となって貰い、体操の時間を設けている。	○	体操の時間はケアカンファレンスであげているが、毎日対応、記録出来ていないのが現状、今後記録の徹底をしていきたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持を自己管理されている方は受診代など自己所持金からご自分で支払われる。	○	希望がある方のみ金銭所持、自己管理されているのが現状であり、今後お金を所持したり使えるように工夫、支援出来るよう様取り組んでいきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	マッサージ、散歩、墓参りなど希望があれば対応している。	○	職員が足りず外出の希望があっても対応出来ない場合があるため、希望日を作ったり、職員の多い日に対応するなどしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の入居者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	訴えがある入居者の希望は聞いているが訴えのない方の希望は聞けていない。また、ご家族からの外泊、外出の申し出があった場合、優先的に意向に添えるようにしている。	○	訴えない入居者に対しても職員から声かけ、希望に添える様対応していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ電話の要望があれば、本人自ら電話していただける様支援をし、知人への年賀状も希望あれば書いて頂いている。	○	家族様から便りが届いても、返信しておらず、今後、ご家族様への便り、返信も含めて職員から入居者に働きかけ、季節にはご家族様への便りを出せる様勧めていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	EV前に季節ごとの飾りをし、面会の方が来やすい雰囲気づくりに心がけている。	○	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちと入居者、職員も一緒に出かける機会を作り、入所前の情報を知る事で今後のケアに活かして行きたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、その他入居者の行動を制限する声かけや行為は行わないことを、職員に徹底し、努めている。	○	ユニット会議などで話し合い徹底していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	<p>鍵を掛けることの弊害に対して理解不足があり、今後勉強会や会議で話し合い理解力を高めていきたい。</p>
67	<p>○入居者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して入居者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	<p>日勤席に職員に座り見守りを徹底しているが、見守りの意味を周知していない職員もいる為、リーダー、サブから現場で伝えていきたい。</p>
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	<p>見守り不足、包丁のなおし忘れがあり、今後リーダー、サブから現場で伝えていきたい。</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	<p>入居者の方の状況に応じて対応しているが出来ない事もあり、今後会議で徹底していきたい。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>入居者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>職員によっては、周知しておらず、今後リーダーから説明、周知徹底させていきたい。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>職員によっては、災害時の対応を周知しておらず、今後会議で説明、周知徹底させていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている	リスク、事故に対して家族様に説明、会議などでも話し合っている。会議内容も家族様に連絡し伝えている。	○	事故対応策を話し合っているが、継続的に現場で実施出来ておらず、今後会議で実施確認するとともに、リーダーが現場でも確認していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタル測定を行っている。個々の入居者の方の状況に応じて、必要毎にバイタル測定を行って、異常があれば速やかにNSの相談、受診を行っている。	○	毎朝のバイタル測定も出来ていない事もあり今後リーダー、サブが現場で確認し徹底させていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療用ファイルの作成にとどまらず、フロア職員が理解しやすいよう処方箋ファイルを作成し与薬の処方変更にも柔軟にも柔軟に正確に対応できるようにしている。与薬後の体調変化は速やかにNSに相談、支持を仰いでいる。	○	薬の効用や副作用について内部研修や勉強会を行い十分な理解をしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便が3日無ければNSに見てもらい、追加下剤の支持を仰いでいる。食事については和食、野菜中心に意識して取れるよう努力してる。	○	今後食事の工夫、運動の工夫を会議などで話し合っていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、職員がつき口腔ケアを行っている。また、週1回訪問歯科に診て貰っている。	○	誤嚥性肺炎に代表されるように、職員の関わりが入居者の方の身体状況に及ぼす影響を考慮して必要十分な支援を提供したい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分については一人あたり1日1.8ℓと決め、GHケースに記録している。食事献立は職員が考えており、栄養面で把握出来ていない。献立を立てた際1ヶ月の栄養を把握する為、リーダー、サブリーダーが献立表を確認、栄養面でも把握している。	○	1ヶ月の献立表をリーダー、サブが確認しているが、栄養面で把握出来ていない、今後リーダー、サブが確認相談した上で栄養面の把握徹底していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	毎年感染症について会議で話し合っている、また、マニュアルを作成し現場で徹底している。	○	職員によってはマニュアルを周知していない為、今後ユニット会議で話し合うとともに、回覧するなどとして周知徹底させていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜勤者が食材の賞味期限確認、調理器具（まな板、包丁）の洗浄、塩素系漂白剤を使用し冷蔵庫、台所内掃除し、夜勤チェック表に記録している。	○	夜勤チェック表以外の台所の掃除が十分できていない事があり、今後夜勤チェック表の項目について会議で話し合い、改善していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 入居者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	和風モダンを意識し、小物の利用や家具を利用し、改装でない工夫を行っている。	○	GH玄関脇に畑を設け、野菜類を栽培している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、入居者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	EV前、リビングに入居者の方が、折った折紙の飾りをし、季節感を出すとともに居心地よく過ごせるように心がけている。	○	決まった入居者の方と折紙を折ることが多く、他の方も参加しやすい様ユニット会議で話合っていたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った入居者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事スペースだけでなく、ソファ・テーブルを設置、又、職員が家具を製作し、個々の入居者の方が自ら居場所を求め、選択できる工夫をしている。	○	入居者の方がいつでも、どこでも、誰とでもくつろげるよう、休憩スペースとして居間を工夫して活用していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	○	ご家族への協力の継続。日常生活や外出の中での希望を入居者の方自身の居室に取り入れていきたい。
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、入居者の状況に応じてこまめに行っている</p>	○	加湿器の水が切れていることがあり、今後リーダーから現場で伝え徹底していきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	○	入居者の方個々の詳細な状況に応じた対応ができるよう、選択肢を広げたい。
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	○	役割を増やし、入居者の方自身が自身の思いで、選択、決定できるようにしたい。
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを入居者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	○	草花ではなく、野菜を中心に、ベランダ菜園の有効な活用をしていきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、入居者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての入居者の ②入居者の2/3くらいの ③入居者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	入居者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	入居者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての入居者が ②入居者の2/3くらいが ③入居者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	入居者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての入居者が ②入居者の2/3くらいが ③入居者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	入居者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての入居者が ②入居者の2/3くらいが ③入居者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	入居者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	①ほぼ全ての入居者が ②入居者の2/3くらいが ③入居者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	入居者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての入居者が ②入居者の2/3くらいが ③入居者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、入居者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての入居者が ②入居者の2/3くらいが ③入居者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、入居者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)